

2024 年度ユネスコスクール年次活動調査

はじめに

このユネスコスクール年次活動調査は、今後のユネスコスクール活動の一層の推進に向けて、ユネスコスクールの実情を把握するとともに、ユネスコスクールの活動を支援するために、現場の皆様の声を政策に反映すること、また現場の皆様が活動の中で活用できる情報を集約することを目的として実施されます。本調査は、ユネスコスクール事務局（ACCU）が回収し、個別の学校名が出ない形で以下の通り毎年度公表していますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。なお、回答対象期間は今後の予定を含めた今年度（2024 年度）の活動としてください。

<https://www.unesco-school.mext.go.jp/documents/annua-activity-survey/>

また、本調査結果は学術的研究のために使用されることがあります（例：ASPUivNet 共同研究、ユネスコスクール関係者による調査・研究等）。その際もデータは、研究に必要な質問項目のデータに限定し、情報管理に関する誓約書を提出した研究者のみが閲覧可能とし、厳正に管理されます。当該研究者が研究のために必要に応じて個別に学校へ連絡を取らせていただく場合が想定されますが、学校名が個別に公になることはありません。

※ 学校名の提供を希望しない場合は、所属地域のみが分かる形（例：関東 A）での提供とさせていただきますので、匿名ご希望の場合は、学校名の頭に【匿名希望】と明記してください。

※ **2025 年 1 月 31 日（金）まで**にご回答頂きますよう、ご協力をお願い申し上げます。

2024 年度ユネスコスクール年次活動調査

ユネスコスクール年次活動調査の質問は以下にございますのでご回答をお願いいたします。必須項目については回答が必須となりますのでご注意ください。

所在地（都道府県）（必須項目）

学校名（正式名称をご記入ください）（必須項目）

※匿名ご希望の場合は、学校名の頭に【匿名希望】と明記してください。

ご回答時の園児・児童・生徒数（必須項目）

- ☐ 1～250 名
- ☐ 251～500 名
- ☐ 501～900 名

- ☐ 901～1,200 名
- ☐ 1,201 名～

ご回答時の教職員数（必須項目）

- ☐ 1～20 名
- ☐ 21～50 名
- ☐ 51～100 名
- ☐ 101 名～

1. 今年度の活動についての調査

① ユネスコスクールとしての体制整備状況について

質問 1 ユネスコスクール担当者の設置を以下から選択してください。（必須項目）

- ☐ 担当者を設置している
- ☐ 担当者を設置していない（質問 4 へ）

質問 2 ユネスコスクール担当者の役職を以下から選択してください。

- ☐ 校長（園長）
- ☐ 副校長（副園長）
- ☐ 教頭
- ☐ 主幹教諭
- ☐ 指導教諭
- ☐ 教諭
- ☐ その他（職名／推進組織名等）

--

質問 3 ユネスコスクール担当者の年齢を以下から選択してください。

- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代以上

質問 4 学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクール／ESD の活動に取り組むための工夫を以下から選択してください（複数選択可）。（必須項目）

- ☐ 学校経営方針や学校経営の重点にユネスコスクールの活動に取り組むことが示されている。

- ☐ 学校経営方針や学校経営の重点に示されていないが、ユネスコスクール活動推進のための仕組みが構築されている。
- ☐ 学内で推進組織が決められている。
- ☐ 学内で担当者が決められている。
- ☐ 児童・生徒もしくは教員の自主組織によってユネスコスクールの活動を展開している（委員会やクラブ活動など）。
- ☐ 外部組織（ASPUivNet・教育委員会など）からの支援を得ながらユネスコスクールの活動を展開している。
- ☐ 地域の方が学校を評価しフィードバックを得ながらユネスコスクールの活動を展開している。
- ☐ 総合的な学習（探究）の時間など、教科・領域に盛り込みユネスコスクール活動を展開している。
- ☐ 特になし
- ☐ その他

質問 5 外国語で情報収集や発信ができたり、交流したりする人員（教員以外の地域、保護者の支援も含む）を確保できる環境が整っていますか（複数選択可）。（必須項目）

- ☐ 英語でのやり取り可能な環境が整っている
- ☐ 英語以外の外国語でのやり取り可能な環境が整っている
- ☐ そのような環境は整っていない

質問 6 今年度の活動について、ユネスコスクール活動に係る費用をどのように負担しましたか（複数回答可）。（必須項目）

- ☐ 自校の日常的な経費として
- ☐ 企業・団体から支給された補助金など（質問 7 へ）
- ☐ 教育委員会から支給された補助金など
- ☐ 文部科学省から支給された補助金など
- ☐ その他（質問 7 へ）
- ☐ 特別な経費はかかっていない

質問 7 質問 6 で「企業・団体から支給された補助金」「その他」を選択した場合、具体的な団体名をご記入ください。

② 国内外の学校間交流について

ユネスコスクール加盟校の活動の活発化及び質の向上のために、国内外との学校間交流が推奨されています。

質問 1 国内外の学校と交流をしましたか（ユネスコスクールに限定しません）（複数選択可）。（**必須項目**）

- ☐ 国内の学校と交流した
- ☐ 国外の学校と交流した
- ☐ 交流しなかった（質問 11 へ）

質問 2 学校間交流を実施するようになったきっかけは何ですか（複数選択可）。

- ☐ ユネスコスクールに認定されたため
- ☐ 姉妹校として提携しているため
- ☐ 授業内で交流が必要になったため
- ☐ ACCU の教職員派遣／招へいプログラムに参加したため
- ☐ その他

質問 3 国内の学校間交流を実施した学校のみご回答ください。学校間交流にて実施した交流活動を以下から選択してください（複数選択可）。

- ☐ 教員の往来（公開授業や視察など）
- ☐ 生徒・児童の往来
- ☐ 会議やセミナーに出席した際の交流
- ☐ 手紙、プレゼント、カード、絵等での交流
- ☐ オンライン（Zoom、Teams、Google Meet、チャット、メール等）での交流
- ☐ 協働プロジェクト／活動の実施
- ☐ その他

質問 4 国外の学校間交流を実施した学校のみご回答ください。学校間交流にて実施した交流活動を以下から選択してください（複数選択可）。

- ☐ 教員の往来（公開授業や視察など）
- ☐ 生徒・児童の往来
- ☐ 会議やセミナーに出席した際の交流
- ☐ 手紙、プレゼント、カード、絵等での交流
- ☐ オンライン（Zoom、Teams、Google Meet、チャット、メール等）での交流
- ☐ 協働プロジェクト／活動の実施

- ☐ その他

質問 5 学校間交流の成果を以下から選択してください（複数選択可）。

- ☐ 他校の取組を自校に取り入れることができ、活動の質が向上した
- ☐ 自分たちの活動とユネスコの理念やユネスコスクールの目的を関連付けるようになった
- ☐ 交流を通じて多様な価値観に触れ、自己の考えや互いの理解を深めることができた
- ☐ 国際交流の中で、異文化への理解が深まり、世界を身近なものとして考えられるようになった
- ☐ 英語を使って積極的に交流する意識が養われた
- ☐ 特になし
- ☐ その他

質問 6 学校間交流の課題を以下から選択してください（複数選択可）。

- ☐ 相手校との交流時間・回数に関わらず、児童生徒に「交流」している実感をもたせること
- ☐ 交流を 1 回限りでなく、継続的なものにする
- ☐ 相手校との調整に携わる担当教員の負担増
- ☐ 交流を実施するための費用の捻出
- ☐ 対面交流の場合、児童生徒の安全面や健康面、行き来にかかる費用面での配慮
- ☐ 特になし
- ☐ その他

質問 7 学校間交流に関する情報をどこから手に入れましたか。

- ☐ 国/都道府県/市町村教育委員会などの行政機関
- ☐ 公益法人、NGO/NPO 等
- ☐ 企業
- ☐ 教職員同士のつながり
- ☐ 地域のユネスコ協会
- ☐ ASPUnivNet（ユネスコスクール大学間ネットワーク）
- ☐ ASPUnivNet 以外の大学
- ☐ ユネスコスクール事務局（ACCU）
- ☐ その他

質問 8 学校間交流にあたって支援を受けた組織（企業）・団体がありましたら、ご記入ください。

質問 9 交流校の中にユネスコスクールはありましたか（複数選択可）。

- ☐ 国内のユネスコスクールがあった（③外部団体との連携についてへ）
- ☐ 国外のユネスコスクールがあった
- ☐ なかった（③外部団体との連携についてへ）

質問 10 国外のユネスコスクールと交流した場合、相手校の地理区分を以下から選択し（複数選択可）、具体的な国（地域）名をご記入ください。

- ☐ アジア
- ☐ ヨーロッパ
- ☐ アフリカ
- ☐ 北アメリカ
- ☐ 南アメリカ
- ☐ オセアニア

国（地域）名

質問 11 交流しなかった学校のみご回答ください。交流しなかった理由について、以下より選択してください（複数選択可）。

- ☐ 交流のための費用を捻出するのが難しいから
- ☐ 交流のための人員確保が難しいから
- ☐ 交流校を見つけるための支援がないから
- ☐ 交流するための方法が思いつかないから
- ☐ 交流するメリットが感じられないから
- ☐ インターネット等にアクセスできる環境がないから
- ☐ その他

質問 1 外部団体とユネスコスクールの活動を通して連携しましたか。(必須項目)

- 質問 2** 連携した場合、どの団体と連携したか以下から選択してください（複数選択可）。

- | |
|--|
| |
|--|

- ☐ 講師を招へいし、児童・生徒の活動の指導・支援をもらった
- ☐ 講師を招へいし、教員向けの研修会を実施した
- ☐ 教材を提供してもらった
- ☐ 共同で授業開発をおこなった
- ☐ 施設に訪問した
- ☐ その他

--

質問 4 外部団体と連携することになったきっかけについて、簡潔にご記入ください。

質問 5 外部団体と連携した成果を以下から選択してください（複数選択可）。

- ☐ 学校の資源だけでは実施できない多様な活動ができた
- ☐ 学校と保護者、地域との結びつきを強化できた
- ☐ 外部団体の取組を知ることで、児童生徒の地域社会に対する視野が広がった
- ☐ 専門的なアドバイスをもらうことで、教員以外の視点から社会について学ぶ機会となった
- ☐ 誰かのために自分の力を発揮しようと動く児童生徒が増えてきた
- ☐ 特になし
- ☐ その他

質問 6 外部団体と連携をした際の課題を以下から選択してください（複数選択可）。

- ☐ 方向性の擦り合わせ
- ☐ 継続的な連携体制の構築
- ☐ どのように児童生徒の自主性や主体性を発揮した活動にするか
- ☐ 外部団体との調整に携わる担当教員の負担増
- ☐ 連携を実現するための費用の捻出
- ☐ 特になし
- ☐ その他

質問 7 今年度、校外における ESD・ユネスコ活動に関する研修に参加しましたか。（必須項目）

- ☐ はい
- ☐ いいえ（④ESD の推進拠点としての活動成果の発信へ）

質問 8 ESD・ユネスコ活動に関する研修会を主催していた団体名をご記入ください。

質問 9 ESD・ユネスコ活動に関する研修会名をご記入ください。

④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信

質問 1 ユネスコスクール（日本国内の場合、ESD 推進拠点）として、実践や研究に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESD の理念の普及に努めましたか。（必須項目）

- ☐ 努めた（質問 2 へ）
- ☐ 努めなかった（2. ユネスコスクールとしての活動の成果へ）

質問 2 努めた場合は、どのような手段を通じて成果を発信しましたか。（複数選択可）

- ☐ 報告会や研修会の開催
- ☐ 学校の研究紀要等による他校の教員や教育委員会等への発信
- ☐ 学校便り等による保護者や地域への発信
- ☐ ユネスコスクール全国大会等他の機関主催の研修会等で実践事例発表
- ☐ 学校の公式ウェブサイト・SNS
- ☐ ユネスコスクール公式ウェブサイト
- ☐ その他

2. ユネスコスクールとしての活動の成果

① ユネスコスクールに求められる活動

質問 1 ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの分野のうち、特に活動成果のあったものを選んでください（複数選択可）。（必須項目）

- ☐ 地球市民および平和と非暴力の文化
- ☐ 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
- ☐ 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重
- ☐ 特になし

質問 2 国際デーを少なくとも 2 つ取り上げ、学校全体で記念行事を行いましたか。（必須項目）

- ☐ 行った
- ☐ 行っていない（質問 4 へ）

質問 3 どの国際デーを取り上げましたか。

質問 4 ユネスコスクールとしての教育活動の題材として、SDGs の 17 の目標のうち特にどの目標に関連した内容を取り上げましたか。特に関連する **3 つの** 目標についてお答えください（複数選択可）。（必須項目）

- ☐ 目標 1（貧困）貧困をなくそう
- ☐ 目標 2（飢餓）飢餓をゼロに
- ☐ 目標 3（保健）すべての人に健康と福祉を
- ☐ 目標 4（教育）質の高い教育をみんなに
- ☐ 目標 5（ジェンダー）ジェンダー平等を実現しよう
- ☐ 目標 6（水・衛生）安全な水とトイレを世界中に
- ☐ 目標 7（エネルギー）エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ☐ 目標 8（経済成長と雇用）働きがいも経済成長も
- ☐ 目標 9（インフラ・産業化、イノベーション）産業と技術革新の基盤をつくろう
- ☐ 目標 10（不平等）人と国の不平等をなくそう
- ☐ 目標 11（持続可能な都市）住み続けられる街づくりを
- ☐ 目標 12（持続可能な生産と消費）つくる責任つかう責任
- ☐ 目標 13（気候変動）気候変動に具体的な対策を
- ☐ 目標 14（海洋資源）海の豊かさを守ろう
- ☐ 目標 15（陸上資源）陸の豊かさを守ろう
- ☐ 目標 16（平和）平和と公正をすべての人に
- ☐ 目標 17（実施手法）パートナーシップで目標を達成しよう
- ☐ 特になし

② ESD と SDGs の関係に関する認知度

質問 1 「ESD:SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）」という、2020 年から始まった ESD に関する新たな枠組みが国連及びユネスコで採択されたことについて知っていますか。（必須項目）

- ☐ 知っている
- ☐ 知らない

質問 2 ESD は、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標 4（教育）のターゲット 4.7 に位置付けられていることについて知っていますか。（必須項目）

- ☐ 知っている
- ☐ 知らない

③ ユネスコスクールとしての活動による変化

ユネスコスクール加盟校（ESD 推進拠点）として今年度を通して感じられる変化についてご回答ください。

質問 1 貴校の園児・児童・生徒にみられる変化について

(1) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて、育みたい資質・能力を明確にしていますか。 **(必須項目)**

- ☐ している
- ☐ していない

(2) ユネスコスクールとして、教育活動を通じて身に付いた資質・能力を捉えるための評価をしていますか。
(必須項目)

- ☐ している ((3) へ)
- ☐ していない ((4) へ)

(3) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて身についた資質・能力を捉えるため、どのような方法で評価をしていますか (複数選択可)。

- ☐ ペーパーテスト
- ☐ プレゼンテーション (発表会等の表現の場)
- ☐ ルーブリック評価
- ☐ パフォーマンステスト・テクニカルテスト (実技・作業検査)
- ☐ ポートフォリオ
- ☐ 振り返り記述などのアンケート
- ☐ その他

--

(4) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて、次に示す持続可能な社会づくりを構成する6つの視点のうちどの視点が、最も園児・児童・生徒に身についたと感じますか。 **(必須項目)**

- ☐ 多様性 (いろいろある)
- ☐ 相互性 (かかわりあっている)
- ☐ 有限性 (限りがある)
- ☐ 公平性 (一人ひとり大切に)
- ☐ 連携性 (力を合わせる)
- ☐ 責任性 (責任を持つ)
- ☐ 特になし

(5) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて、特に園児・児童・生徒に身についたと感じられるものがありましたら、ご記入ください (例: 知識及び技能/思考力、判断力、表現力等/学びに向かう力、人間性等 参考: 学習指導要領「資質・能力の三つの柱」)。

--

質問 2 質問 1 でお答えいただいたような園児・児童・生徒の変化を促すきっかけとなった教育活動がありましたらご記入ください。

--

質問 3 貴校の教員の変化について

(1) カリキュラム・教授法で「変化がある」と評価できることについて、以下より選択してください（複数選択可）。（**必須項目**）

- ☐ 持続可能性に関する価値観をもとに授業等を見直す機会をもたらす。
- ☐ 教科領域を超えて横断的に取り組むなどカリキュラムマネジメントを工夫するようになる。
- ☐ 児童・生徒自らが問題意識をもち課題を発見できるようなカリキュラムを開発するようになる。
- ☐ 授業の教材や資料、発問を工夫するようになる。
- ☐ 国内外のユネスコスクールとの交流により指導技術の向上を図ろうとする機運が高まる。
- ☐ 国内外のユネスコスクールと交流の機会をつくり、ユネスコスクールネットワークの特性を活かした学習を取り入れるようになる。
- ☐ 特になし
- ☐ その他

--

(2) 学校運営で「変化がある」と評価できることについて、以下より選択してください（複数選択可）。（**必須項目**）

- ☐ 学校全体で ESD に取り組む機運が高まる。
- ☐ 教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになる。
- ☐ あらゆる教員が自主的にチームを組み活動を展開するようになる。
- ☐ ユネスコスクールの活動を継続的に実施できるような仕組みづくりをするようになる。
- ☐ ESD やそのほかのユネスコの理念と関係する研修会に積極的に参加するようになる。
- ☐ 教員が積極的に地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まる。
- ☐ 保護者に積極的に学校のユネスコスクールに関わる活動を発信するようになる。
- ☐ 特になし
- ☐ その他

--

3. ユネスコスクール支援の利用状況

質問 1 ユネスコスクール事務局からどのような支援を受けましたか（複数選択可）。（必須項目）

- ☐ ユネスコスクール加盟時の申請支援
- ☐ ユネスコスクール間交流のためのマッチング
- ☐ 有識者の紹介及び派遣
- ☐ 事務局職員による出前講習
- ☐ ユネスコスクール事務局（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU））開催の研修会及び事業への参加を通じた支援
- ☐ 外部の研修会、教材、その他ユネスコスクールに関わる有益な情報の紹介
- ☐ 特になし（質問 2 へ）
- ☐ その他

質問 2 質問 1 で「特になし」と回答した場合、今後どのような支援を希望しますか。

質問 3 ユネスコスクール公式ウェブサイトを利用していますか。（必須項目）

- ☐ 利用した
- ☐ 利用しなかった（質問 5 へ）

質問 4 ユネスコスクール公式ウェブサイトでどのような機能を使いましたか（複数選択可）。

- ☐ ユネスコスクールの概要を知るための情報収集
- ☐ 学校間交流実施のための情報収集
- ☐ 他校の学校情報検索（加盟校情報）
- ☐ 教材・実践事例・関連資料等の情報収集、入手
- ☐ イベントやキャンペーン等に関する情報収集
- ☐ 自校が主催するイベント等の情報発信
- ☐ 国際デーに関する情報収集
- ☐ その他

質問 5 この 1 年間でユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）加盟大学（現状で 24 大学が加盟）からどのような支援や協力を受けましたか（複数選択可）。（必須項目）

- ☐ ユネスコスクール加盟後の活動についての個別相談

- 質問 6** 質問 5「その他」を選択した場合、簡潔にご記入ください。

以上

本調査に係る要望・意見について

【連絡先】

webmaster@accu.or.jp

本調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。